

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

|       |      |    |         |
|-------|------|----|---------|
| 名古屋大学 | 前期日程 | 科目 | 国語(現代文) |
|-------|------|----|---------|

## 総 括

|     |          |                       |     |    |  |
|-----|----------|-----------------------|-----|----|--|
| 理学部 | 出題数      | 現代文 1 題               |     |    |  |
| 他   | 出題数      | 現代文 1 題、古文 1 題、漢文 1 題 |     |    |  |
|     | 難易度(昨年比) | 難化                    | 昨年並 | 易化 |  |
|     | 分量(昨年比)  | 増加                    | 昨年並 | 減少 |  |

### <総 論>

今年度も昨年度同様、評論が出題された。本文量は3500字程度で昨年度より600字程度減少している。設問数は昨年度と同様7問であった。解答記述量は220字程度(100字程度、60字程度×2)であり、昨年度より100字程度減少している。傍線部の意味に相当する箇所を本文から抜き出す問題が、2つ出題された。また、漢字の書き取りと読みの問題数が昨年と同じく8題であった。

### <合格への学習対策>

名古屋大学の現代文は本文を正確に読解できれば設問が解けるというオーソドックスな問題である。本文難度もさほど高くなく、標準的な評論読解力があれば十分に読みこなすことができる。また、記述説明問題も、読解を前提に、本文中に解答ポイントを発見できれば、抜粋合成で一定レベルの答案を作成することが可能だ。

したがって、まず、評論の読解力をつけることが必要である。一定時間で本文を通読し、本文全体の論理構造を把握し、内容を理解する読解力を養っておこう。記述解答の作成については、設問文をきちんと読み、その要求にしたがって解答ポイントを発見し、そのポイントを押さえて正しい構文で書くという手順で取り組みたい。

## 問題分析(本文)

| 問題番号 | 類別(ジャンル) | 出典(著者)          | コメント(特徴・出題頻度など)                                                                                   | 本文のレベル |
|------|----------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 一    | 評論       | 伊藤亜紗「豊かな弱さのために」 | 比較的最近(2024年12月)の雑誌に掲載された文章から出題された。吃音の持ちうる意味合いについて、交差性の課題との関わりを論じ、弱さを認めることが「豊かな弱さ」へとつながることを指摘している。 | 標準     |

## 設問分析

| 問題番号 | 設問番号  | 設問形式 | 設問内容(特徴・解答上のポイントなど)                                                                                                                                                                    | 設問のレベル |
|------|-------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 一    | 問一    | 記述   | 漢字の書き取りと読み。                                                                                                                                                                            | 標準     |
|      | 問二(1) | 選択   | 疑問表現である傍線部に対する答えについて、本文の内容に合致しない選択肢を答える問題。エの選択肢は、4段落の内容と食い違う。                                                                                                                          | 標準     |
|      | 問二(2) | 記述   | 傍線部の内容について、端的に述べている一文を抜き出す問題。9段落「このことが意味することは何なのか？」に注目して、その直後の一文を答えとする。                                                                                                                | 標準     |
|      | 問三    | 記述   | 傍線部についての内容説明。「吃音」を例にすることと「交差性」の語を用いることという条件がある。11段落「複数の視点を取りながらナガめることによって、吃音というひとつの障害が持つ意味が豊かになっている」という内容を軸にする。「交差性」については、10段落の内容を確認した上で、「複数の視点をとる」ことが「交差性」と対応した逆の内容であることを使って、解答に反映する。 | 標準     |

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

|  |           |    |                                                                                                                           |    |
|--|-----------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
|  | 問四        | 記述 | 傍線部の内容について、ほぼ同じ趣旨となる一文を抜き出す問題。傍線部が端的に障害をめぐる「強さ」であることをおさえ、傍線部「そこ」の指示内容を確認すると、15 段落の表現との対応がとれる。                             | 標準 |
|  | 問五        | 選択 | 傍線部の内容について、合致している選択肢を答える問題。「強さ」「体がメディアである」という点で選択肢ウが選べる。                                                                  | 標準 |
|  | 問六<br>(1) | 記述 | 傍線部についての内容説明。17 段落の内容を整理する。                                                                                               | 標準 |
|  | 問六<br>(2) | 記述 | 傍線部についての内容説明。18 段落の内容を整理する。                                                                                               | 標準 |
|  | 問七        | 記述 | 本文全体を 3 つの意味段落に分ける問題。まず、エリスに代表される障害についての考察と、そこから敷衍される現代社会についての考察に 2 分する。つぎに、障害についての考察部分を吃音についての具体的考察部分と障害一般についての考察部分に分ける。 | 標準 |

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

国語(古文)

総括

| 出題数      | 現代文 1 題, 古文 1 題, 漢文 1 題 |     |    |  |
|----------|-------------------------|-----|----|--|
| 難易度(昨対比) | 難化                      | 昨年並 | 易化 |  |
| 分量(昨対比)  | 増加                      | 昨年並 | 減少 |  |

## 〈総論〉

問題文の文字数は、昨年度の約 1300 字よりも減少し、1000 字程度であった。

## 〈合格への学習対策〉

普段から現代語訳や説明の記述答案の作成対策をしておくこと。一語一語を正確に現代語に置き換える逐語訳を土台として、その上で文脈から必要な語句を補う練習を十分に行うことが肝要である。

## 問題分析(本文)

| 問題番号 | 類別(ジャンル) | 出典(著者)             | コメント(特徴・出題頻度など)                                                                            | 本文のレベル |
|------|----------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 二    | 作り物語     | 『源氏物語』 紫式部<br>平安中期 | 昨年度は出題されていた文学史問題、説明問題は出題されなかった。昨年度同様、文法問題が出題された。<br>昨年度は出題されなかった空欄補充問題が出題された。その他は現代語訳であった。 | 標準     |

## 設問分析

| 問題番号 | 設問番号 | 設問形式 | 設問内容(特徴・解答上のポイントなど)                                                   | 設問のレベル |
|------|------|------|-----------------------------------------------------------------------|--------|
| 二    | 問一   | 記述   | 品詞分解・文法的説明。                                                           | やや難    |
|      | 問二   | 記述   | 現代語訳<br>(ア) 「ののしる」がポイント。<br>(イ) 反実仮想の省略部分を補う。<br>(ウ) 「だに」の類推の用法を理解する。 | 標準     |
|      | 問三   | 記述   | 和歌の現代語訳。<br>「わく(分く)」がポイント。                                            | 標準     |
|      | 問四   | 空欄補充 | 掛詞に注意する。                                                              | やや難    |

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨対比ではありませんので、総括の難易度(昨対比)とは連動しません。

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

| 科目 | 国語(漢文) |
|----|--------|
|----|--------|

総括

| 出題数      | 現代文 1 題, 古文 1 題, 漢文 1 題 |     |    |  |
|----------|-------------------------|-----|----|--|
| 難易度(昨年比) | 難化                      | 昨年並 | 易化 |  |
| 分量(昨年比)  | 増加                      | 昨年並 | 減少 |  |

## 〈総論〉

昨年度は『考信録提要』から出題され、総字数 247 字・設問数 7 問であった。本年度は『顔氏家訓』から出題され、総字数 191 字・設問数 6 問であった。本文の内容をふまえた上での 150 字以内の記述設問は本年度も出題された。

## 〈合格への学習対策〉

- ・頻出句形を十分にマスターしておくこと。
- ・説明問題に対処するため、読解力・表現力を身につけておくこと。
- ・全文の構成を見抜く力を養うこと。また、長文を読解するスタミナを身につけておくこと。

## 問題分析(本文)

| 問題番号 | 類別(ジャンル) | 出典(著者)      | コメント(特徴・出題頻度など) | 本文のレベル |
|------|----------|-------------|-----------------|--------|
| ㊦    | 随筆       | 『顔氏家訓』(顔之推) | しばしば出題される。      | やや易    |

## 設問分析

| 問題番号 | 設問番号 | 設問形式 | 設問内容(特徴・解答上のポイントなど)   | 設問のレベル |
|------|------|------|-----------------------|--------|
| ㊦    | 問一   | 記述   | 語の読み(ひらがなで)。3 問。      | 易      |
|      | 問二   | 記述   | 書き下し。返り点付き。使役。判断「以為」。 | やや易    |
|      | 問三   | 記述   | 現代語訳。返り点・送り仮名付き。      | 易      |
|      | 問四   | 記述   | 書き下し。返り点付き。受身。        | やや易    |
|      | 問五   | 記述   | 現代語訳。返り点・送り仮名付き。      | やや易    |
|      | 問六   | 記述   | 内容要約。150 字以内。         | 標準     |

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。